

## 地区協議会報告

2011.4.10

グランドパーク小樽

開会 岡崎芳明(ホスト RC 実行委員会)

・開会の辞

点鐘 熊澤隆樹ガバナー・エレクト

・東日本大震災でお亡くなりになられた方々に対し黙禱を捧げます。

国歌斉唱 大竹秀文(ソングリーダー)

ロータリーソング「奉仕の理想」

歓迎の言葉 北野明宣(ホスト RC 会長)

・おはようございます。さる 3/11 に 発生いたしました大震災に対し亡くなられた人たちに対し哀悼の意を表し、被災された皆様にお見舞い申し上げます。その中、小樽で地区協議会を開催することが出来大変うれしく思っております。何分不慣れなことも多々あるかと思いますがクラブ会員一丸となり、おもてなしの精神で皆様方のお手伝いをさせていただきますので宜しくお願いいたします。

役員紹介 熊澤隆樹ガバナー・エレクト

・地区役員を順次紹介、ガバナー補佐は一斉起立のみ。

ガバナー挨拶 佐々木正丞ガバナー

・おはようございます。ようこそ地区協議会にお越し下さいました。日本が非常に困難な時期に開催するにあたり色々な意見もありますが、今日はロータリーの力を示したいと思います。公式な場所での最後の話になると思います。ガバナー研修で欧米を見た時に、日本では考えられない若い世代が多く壇上にあがっていました。ローターアクト、GSE 等で見ることがありますが、それ以外はほとんどありません。このあたりは考えなくてはなりません。ロータリーの会員増強という観点からロータリーの広報活動、PRとしてロータリアン以外の人たちに対しロータリーの説明ができるようにしなければならないと思います。さらに IT 時代といわれておりますが、利用状況は諸外国に比べかなり遅れています。手続要覧にも E クラブという項目で綴られていますが、本地区で E クラブを開設したという報告は受けておりません。

ロータリーが単年度なのは御存じの通りですが、RIとしては2年、3年と委員会を継続させる、会長でさえも継続してもいいという考え方があります。クラブ運営を活性化させるためのものです。CLPの導入についてもおなじです。なによりクラブ活動を活発にさせていただく手段とお考えください。

#### ガバナー・エレクト講演(熊澤隆樹)

おはようございます。私は全国で10番目、創立78年の小樽クラブ入会31年目になります。3/12のPETSは震災の翌日に関わらずほとんどの会長エレクトの出席をいただき無事終了することができました。この場を借りお礼申し上げます。2011-2012年度RIテーマは「こころの中をみつめよう、博愛を広げるために」、強調事項は家族・継続・変化です。地区目標として①ロータリーの活動を担う新しい会員を増やすこと。②クラブは(全会員参加型の)新しい奉仕活動を年度内に一つ行うこと。③まわりの人にロータリーを巧みに語り伝えること。としました。ロータリアンは家族と過ごす時間を大切に、青少年の育成、ポリオ撲滅運動への継続、変えるべきことは何かを見極めて、勇気を持って行動し、変化を恐れないことが望まれます。そして強いクラブ、的を絞った有意義な奉仕活動、好ましい公共イメージといった長期計画を中心にして、中核となる価値観、奉仕・新睦・多様性・高潔性・リーダーシップを組織の指導原理として活動いたします。この目標達成のために地区組織を改め、会員増強委員会を独立させ、また、広報・IC委員会を新たにし、社会奉仕、国際奉仕、新世代奉仕をまとめる奉仕プロジェクト委員会を新設いたしました。この他、クラブでCLPをすすめる中、それに対応できる地区組織に、今回少し手直しをしました。細川年度にも引き続き行われると思っております。本年度を振り返って「あの年が転機だった」と言われるようにしたいものです。そのために一つずつかくじつにできることを実行してまいりましょう。各クラブ会長ができるという思いがこころの中に生まれた時、それが実現すると私も信じております。

#### 地区研修リーダー講演(塚原房樹)

まず最初に災害に被災された皆様にお見舞い申し上げます。ロータリーの歴史の中でも存亡の危機がいくつかありました。第一次世界大戦、世界恐慌、第二次世界大戦。この時、日本は昭和15年にRIを脱退いたしました。復帰したのは昭和24年です。この9年間、隠れキリシタンのように水曜会、職能会等名前を変え例会を続けました。続けられた理由は先達の「勇気とロータリー愛」の他ありません。弱者に涙する心、その心が奉仕の原点です。国家有事中のロータリー活動は「ロータリアンは常にその国の忠実な愛国者である」ことが何よりの義務であります。

さて、本日の研修の主題は年次テーマ、地区目標、会長の役割等です。ガバナーはRIのテーマ、重点方針を自分の言葉に噛み砕いて役員のみなさんに話すことです。そして役員のみなさんはそれを次年度計画に盛り込むことです。どうぞ次年度役員の皆様宜しく願いいたします。

「こころの中をみつめよう。博愛を広げよう。」RIテーマです。

インド出身のカルヤン・バネルジーRI会長は宗教の心を持ったロータリアンです。ロータリーそのものもキリスト教の精神を取り入れています。2400年前にインドで生まれた大般若経、自分の中にわけ入って「真実の人間性」を開発するのが「ほとけ」の心です。

近年、ロータリー本来の目的が薄れています。RIの目的は組織拡大です。ロータリーの奉仕の精神を伝えることです。ロータリーは共同体です。社交クラブという共同体です。自然発生的に生まれた会員の満足と自己改善を目的とした組織です。

国際ロータリーのクラブ管理の基本方針は、個人ロータリアンによる「ロータリーの綱領の推進」であります。そして各クラブには実質的な自治があります。クラブ定款の解釈は柔軟かつ融通性を持って管理することを改めて推奨いたします。

ロータリーは減少傾向にあるといっても世界 120 万人の大所帯です。奉仕理念の研鑽からクラブは RI を思い RI はクラブを思うことを忘れないで下さい。

そして、是非クラブ会員で RI テーマを話し合ってください。「心の中を見つめる」とは何か、「博愛」とは何かを。

諸事お知らせ 浅原健蔵(ホスト RC SAA)

## 第 1 分科会会長部門

リーダー 熊澤隆樹ガバナー・エレクト

サブリーダー 細川好弘ガバナー・ノミニー

アドバイザー 佐々木正丞ガバナー

アドバイザー 丸山淳士パスト・ガバナー

熊澤ガバナー・エレクトから奉仕プロジェクト委員会のあり方について説明があり、奉仕の考え方、国際奉仕、財団の関わり等説明された。また、今回の大震災救 援奉仕プロジェクト委員会を立ち上げ、活発に活動していくことが報告された。また、丸山パスト・ガバナーの理想的ロータリー・クラブ会長の条件というテーマでのお話があり、大変楽しく、各クラブ会長さんの今後の 1 年間の活躍の力になったことと思います。大きなエネルギーを与えていただいたことに感謝いたします。

## 第 2 分科会幹事部門

リーダー 杉江俊太郎(次期地区代表幹事)

サブリーダー 久保田俊昭(地区代表幹事)

アドバイザー 塚原房樹(パスト・ガバナー)

杉江リーダーの次期クラブ幹事に対する 10 の質問から分科会はスタートした。事務局員、HP の有無等各クラブの実情を挙手していただき IT、CLP 関連の質問では昨年よりポイントが上がった旨の報告をした。RI の 資料はすべてネット配信で、強制ではないが嫌が上でもパソコンの世界に足を踏み入れなければならない現実を報告された。非常にきめ細かく、ポイントを押さえた幹事要覧、当日配布資料の説明、幹事のクラブでの役割を滑舌良くゆっくりと説明いただきとてもわかりやすい分科会であった。

久保田俊昭(地区代表幹事)からの補足説明

クラブは国際ロータリーに直結しています。クラブには自治権があります。地区は RI とクラブをつなげる役目があります。公式訪問は、RI の言葉を伝えるに行きます。補佐はガバナー直属の部下になります。CLP は推奨事項で強制事項ではありません。資料の「元気なクラブづくりのために」という冊子はかならず読んでください。会員に対して満足度アンケートをして下さい。活力度テストをやってください。クラブの 3 力年計

画を立ててください。長期計画をもって単年度計画を立ててください。CLPに沿ったクラブ細則の改定をお願い致します。

塚原房樹アドバイザー(バストガバナー)

インターネットをうまく活用してください。ただ、それにばかり頼ると自分を見失います。

ロータリーの歴史、理念、哲学、組織規定、奉仕活動について簡潔にわかりやすく説明された。

杉江次期地区代表幹事からの補足説明

RI 日本事務局に問い合わせると会員アクセスの方法をこと細かく教えてくれます。そうしますとネットで提出書類を処理できます。事務手続きが簡易になります。是非、挑戦してください。期が変わりますとアクセス方法が変わりますのでご注意ください。

## 第3分科会クラブ奉仕部門

リーダー 長谷川壽朗(次期地区クラブ奉仕委員長)

サブリーダー 宮部光幸(次期クラブ奉仕副委員長)

アドバイザー 遠藤秀雄バスト・ガバナー

クラブ奉仕委員会は3部構成で研修が進められた。第1部では宮部サブリーダーにより、ロータリーの「コンセプトの変革、変遷」の視点でクラブ・リーダーシップ・プラン(C.L.P)を考えると話された。特にC.L.PとD.L.P(地区組織構成)の整合性が問われ、当地2510地区においてC.L.Pが思うように導入されない要因の一つと考えられるので、地区としても組織構成を明確にすることで整合性を高めて各クラブのC.L.P導入を促したいとして4つの課題が明確にされた。

1. ガバナー補佐の任命、役割
2. 標準的地区の組織変更
3. クラブ・リーダーシップの支援
4. 指導者の継続性を保証する体制

また、ロータリークラブの活動の原点は職業奉仕であり、船に例えて職業奉仕はエンジンであり、ロータリー号という船の進む先に奉仕の領域があるとの図式が示された。これがC.L.P導入の姿でできるだけコンパクトで21世紀に相応しいロータリークラブの体制づくりをしようと結ばれた。

第2部では元気なクラブづくりのためにとして、実務的な話しが長谷川リーダーにより展開されて、元気で活発なクラブづくりのためのC.L.P導入に関連して成功したロータリークラブのベストプラクティスが紹介された。中でも10項目で紹介されたR.Iの進める5委員会が明示された管理運営委員会、会員増強委員会、広報委員会、奉仕プロジェクト委員会、ロータリー財団委員会、C.L.Pにおいては理事会のもとに以上5つの委員会を常任委員会とし極めてシンプルな構成が推奨されているとし、しかし大事なことはC.L.Pはクラブ活性化する1つの手段でC.L.P自体が目的ではないことを忘れてはならないと結ばれた。

第3部は全体討論でC.L.P導入クラブ、未導入クラブからの様々な質疑応答が繰り返され大変活発な意見交換がされた。最後に遠藤パストガバナーよりアドバイスがあり、クラブにおいて現会長、直前会長、会長エレクト、3人の中でコンセプトが引き継がれているかどうかの問題で、継続性がなければクラブの活性化はないと話されたるそれぞれに大変有意義な研修であった。

## 第4分科会職業奉仕部門

リーダー 山本雅昭(次期地区職業奉仕委員長)  
サブリーダー 高橋徹(次期地区職業奉仕副委員長)  
アドバイザー 渡邊恭久(パスト・ガバナー)

職業奉仕委員会として3つの重点目標のうち3番目の目標として「まわりの人にロータリーを巧みに語り伝えること」となっております。それを実現するために組織を独立します。一隅を照らすのがロータリーですので次の3件について活動目標とします。

- ① 職業奉仕フォーラム・職業奉仕に関する外部卓話・会員の職業観の例会
- ② 職業奉仕の歴史と意味
- ③ こどもたちへの出前事業、職業体験の実施

以上が地区としての活動計画です。

## 第5分科会奉仕プロジェクト部門

リーダー 阪崎健治朗(次期地区奉仕プロジェクト委員長)  
リーダー 清水哲(次期地区社会奉仕委員長)  
リーダー 手塚貴志(次期地区国際奉仕委員長)  
サブリーダー 中川信喜(次期地区社会奉仕委員)  
サブリーダー 松原重俊(次期国際奉仕委員)  
アドバイザー 佐藤秀雄(パスト・ガバナー)  
アドバイザー 矢橋温郎(パスト・ガバナー)

阪崎奉仕プロジェクト委員長挨拶

- ① 東日本大震災のために、急遽立ち上げられた委員会(大震災救援奉仕)
- ② 並行して、社会奉仕・国際奉仕・新世代を統括する委員会  
屋上屋ではなく、各委員会委員長を中心に活動をお願いする
- ③ ガバナーの方針に沿って、情報を発信してゆきたい
- ④ 各委員会は、各クラブとのコミュニケーションを大事にして頂きたい

清水社会奉仕委員長

- ① 活動方針

当委員会は、ロータリーの原点がクラブに主体性があることを確認し、常にクラブの活動が円滑に推進されるために、何が必要かを考えながらサポートする委員会である。同時にクラブが一層活性化するために、いくつかのヒントを提示し、参考にしていただけるように積極的な姿勢でのぞみたい。社会奉仕は重要なロータリーの表現方法であり、新しい空気の注入によって、より活性化に努めていただけるよう様々な情報を伝え、また調査もさせていただきながら、地区とクラブの友情ある関係を深めていく一年にしたい。

## ② 活動計画

ガバナーの三つの地区目標に沿った、地区全体の社会奉仕委員会の新鮮で創造的な活動の展開を期待する。

毎年行われた「地区ブロック別意見交換会」は、その年度の各クラブ方針が決まった時点、7月に行われてきたので休止し、社会奉仕活動レポート「明日へ」の冊子を活用し、情報を伝え、活動したい。

RID2510 大震災救援奉仕プロジェクトに協力要請をする

### 「明日へ」社会奉仕活動レポート読み合わせ

発刊に当たって(佐々木ガバナー) 中川サブリーダー代読  
活動ファイル、各クラブ担当者より説明

1. 札幌モーニングRC(子どもたちから留学生まで、口コミで広がるカミネツコン植樹)
2. 室蘭東RC(豊かな自然を復元し、子どもが自然とふれあう場所を)
3. 函館RC(絶滅の危機にある、函館山のエゾヒキガエルを救え！)
4. 留萌RC(病気と戦う子どもたちに、自然の中で過ごす夢のキャンプを)
5. 札幌幌南RC(暗唱大会で深まる、親子のコミュニケーション)
6. 静内RC(災害が多い地域に安心を運ぶ、レスキューボトルの開発・普及活動)
7. 長沼RC(町の恒例行事に成長した、国際交流フェスティバル)
8. 北斗RC(活動をとおして子どもたちに、薬物乱用の怖さを知ってもらう街頭啓発)
9. 札幌東RC(児童養護施設の子どもたちに、笑顔を届けるクラウン・パフォーマンス)

### 手塚国際奉仕委員長

二つの小委員会 WCS委員会(97%)、友好担当委員会・・韓国3770地区

#### ★ WCSプログラム

RIでは、2011年6月30日をもって廃止と通知あり

熊澤年度は、ガバナーより要請がありWCSの冠はつかないが、国際奉仕委員会として、今までの精神をもって続けてゆきたい

#### <目的>

1. 援助を必要としている人々の生活の質を国際奉仕を通じて高める
2. 成功談を他のロータリアンに伝える
3. 国際理解、親善平和を育む
4. 金銭だけを送るのではなく、事業を行った時は必ず検証をして、相手のロータリークラブと親交を深める事が義務付けられている

#### <規約>

1. プロジェクトの内容が、人道的性質である事
2. 学業・生活において、底辺にある事(幼児・小学生対象)
3. ニカ国以上のRCが関与し、その一方の国で行う事

- ① 2010～2011年度 WCS事業について説明
- ② 2010年2月 タイ国WCS検証事業について説明
- ③ 2011～2012年度 地区国際奉仕事業について説明  
(以上、スライド写真説明含む)
- ④ タイ国検証事業②のDVD(田中パストガバナー補佐撮影編集)  
(手塚委員長説明、)

国際奉仕委員会、本年度の支援対象国は、日本を最優先として考えたい

#### 質疑応答・纏め・講評

- ① 砂川RC 永森会員  
使用済み切手回収の現在の状況  
阪崎委員長・・・JOCS(日本キリスト教海外協力会)等 緊急事態の時に医療体制で応援するための資金として活用している
- ② 恵庭RC 久野会員  
交換留学生 受入学生が震災で帰国した事による、派遣学生の件  
矢橋PG(分科会報告にて)・・・現在東京委員会にて検討中、当地区は、新世代委員会
- ③ 清水社会奉仕委員長  
札幌東活動レポート、ホスピタル・クラウンについて補足説明
- ③ 中川社会奉仕サプリーダー  
札幌南活動レポート、暗証大会補足説明 11月20日3回目予定
- ④ 阪崎委員長  
「明日へ」三つのテーマ 緑の明日へ・子どもたちの明日へ・ふるさとの明日へ  
冊子にされた内容を参考にして、各クラブは新しいプロジェクト開発を夢の未来計画に沿った、プログラムをクラブで永年継続されたプログラムは、マンネリ化を避けるためには、勇気をもってやめる事も、ただしその時には、地域の声をよく聞いて判断
- ⑤ 手塚国際奉仕委員長  
二つの奉仕委員会、一つの部屋は無理がある、病院には外科、内科もあるように今まで、約三万人に水を供給、水の一滴も大事、また検証はぜひ必要
- ⑥ 千歳セントラルRC 田口会員  
WCSのメンバーとして、この時期は世界ではなく、日本に眼を向けるべきだと言われるが、どう思うか、支援を優先するか、国際奉仕か、個人的には国内を考えたい
- ⑦ 札幌西RC 宮崎会員  
GSEメンバーについては、訪問するかどうか最終決定はまだ
- ⑧ 矢橋PG  
国際奉仕と社会奉仕、別にした方が良かった、交換学生の話も入り混乱する
- ⑨ 佐藤PG

大震災救援奉仕プロジェクトは、2年位のスパンで協力を依頼する形  
支援の件、心情的には、日本国向けと思うが、予算的にはさほどWCSに使ってないので、未来の  
夢計画等の資金を利用して続けてほしい  
社会奉仕活動は、出来得るなら5年～10年のスパンで廃止して、市の方に移管をする事を考え  
てほしい、ロータリーの基本理念として考える。ただし、植樹等事業、将来的に資産価値となるも  
のは継続すべき  
国際奉仕は、東南アジアからアフリカに眼を向けるという話もあるが、各クラブの私見で良いと思う、  
検証という事業もあるのだから良く考えて行動

## 第6分科会新世代部門

リーダー 柳孝一(次期地区新世代委員長)  
サブリーダー 蝦名大典(次期地区ロータリーアクト委員長)  
サブリーダー 若松孝(次期地区インターアクト委員長)  
アドバイザー 酒井正人(パスト・ガバナー)

最初に酒田パストガバナーより第五奉仕部門に新世代奉仕を追加することになった経緯と、理由の  
説明がありました。「一部にささやかれているような、ロータリー家族、会員を増やすためということではなく、  
子供達を大切にしようという以前からの流れにのったものである」とのお話でした。

### \* 若松インターアクト委員長の現状報告

2510 地区では、8つのクラブがインターアクトを提唱しており、すべて高校の部、局、同好会活動の形を  
とっている。近年、学校では、ボランティア部が盛んで、インターアクトは減少気味。国際理解の活動が出  
来ていないという問題もある。

### \* 蝦名ロータリーアクト委員長

6クラブ 61名で、主に社会人を中心として活動。当地区では衰退の傾向にある。近くのロータリーアクトク  
ラブと接点を持ってほしい。

### \* 出口青少年交換副委員長

福島原発事故以来、ほとんどの留学生が帰国してしまった。特に、親の意向が強く働いている。  
問題点として

- ① 留学生 1名受け入れるのに、80～100万の財政上の負担がある
- ② ホストファミリーが高齢化し、受け入れが困難
- ③ 受け入れ高校(特に公立高校)を探すのがたいへん

後半は、事前に各クラブから集めた新世代活動のアンケートを資料として、質疑応答形式で活発な討  
議を行いました。特に、3つのロータリープログラムを実施しているクラブと、そうでないクラブの温度差が目  
立ちました。最後に酒井 P.G より、「既にあるプログラム以外にも、それぞれのクラブ独自の活動を進める  
のが大切である」とのアドバイスをいただきました。



・ 分科会報告

第3分科会・長谷川壽朗次期委員長、第4分科会・山本雅昭次期委員長、第5分科会・阪崎健治朗次期委員長、第6分科会・柳孝一次期委員長それぞれから、上記分科会につき簡潔に報告をいただきました。各分科会とも熱心に議論されたことやアドバイザーとしてご参加いただいたパスト・ガバナーからのコメントなどが披露されました。

・ 所感 佐々木正丞ガバナー

本日さっそく熊澤ガバナー・エレクトからの変革に立ち向かう前向きな気概に触れ感銘いたしました。各分科会からの報告では、とても熱心に討議されたことが覗えます。CLPにつきましては、やるやらないの前に、この大きな変化の中でまず自分たちのクラブが自主的にかつ自発的に動いてみてはいかがでしょうか。自分のクラブの反省 やビジョンの検討から始めてはいかがでしょうか。変革には反対が伴いますが、世界のとりわけ日本国内におけるロータリーの凋落傾向は何とかすべきです。また、職業奉仕につきましてですが、経済環境の変動をきちんと認識して、実態に即した職業奉仕を皆で議論していく必要があると感じております。続きまして奉仕プロジェクトにつきましてですが、震災からすぐにRIから基金設立の一報を受けました。ガバナー会ではまずは当面の間は震災への支援を中心に進めようと決まり、阪崎委員長にお願いし特別委員会を立ち上げることになりました。すぐに義捐金のお願いを致しましたが、現在も増え続けていますが、まずは今回の送金額は約1,400万円になりました。ありがとうございました。今後とも長期化するものと思われるので皆様のご協力をお願いいたします。次に新世代部門ですが、私たちはアメリカと違いニュージェネレーションに対する意識が薄いように思います。かといって急にアメリカ並みにはいかないとは思いますが、なんとか意識を持って取り組んでいく必要があります。私は第一分科会会長部門に参加しましたが、丸山パスト・ガバナーが逆説的に説明されたお話の数々、ドラッカーの言葉による解説などなるほどと思うお話が多くありました。私からは震災の報告を中心にさせていただきましたが、参加者の反響が大きく、皆さんが被災地に対してなんとか力になりたいという気持ちを強く感じました。今回の大震災を含め、熊澤丸にとっては苦しい次期でのスタートになりましたが、そういう今だからこそロータリーの真価が問われるのではないかと感じております。これからもよろしく願いいたします。

・謝辞 熊澤隆樹ガバナー・エレクト

長時間にわたりありがとうございました。特に今回の準備と運営につきまして小樽南クラブの皆様にはたいへんなご協力をいただきまことにありがとうございました。7月3日の増強セミナーを皮切りに、新しい年度に向けてまじめに一つ一つやっております。どうか一年間よろしく願いいたします。皆様のご参加ご協力に感謝を致します。ありがとうございました。

・ ロータリーソング「手に手つないで」 ソングリーダー 大竹秀文

閉会の挨拶 実行委員長 見延庄三郎(小樽南 RC)

長時間に亘り、大変お疲れさまでした。本日の協議会は地元小樽から 15 年ぶりで輩出されました熊沢ガバナー・エレクトを中心としまして、豪華な地区役員と小樽 RC の総力を挙げての研修会でしたが、地元であり子クラブでもあります不肖小樽南 RC も 此の会の舞台作り血の滲むような努力をさせて頂きました。それにも拘わらず、不行き届きな点があったかもしれません。でも、その思いは小樽にそっくり置いて行って頂き、本日の協議会の有益な楽しい思いだけを是非お持ち帰り頂きたいと思ひます。そして次年度が皆様方のクラブの歴史に残る充実したロータリー 年度となりますよう、心からエールをお送り申し上げ、閉会のご挨拶と致します。本日は大変有難うございました。

記：小樽南ロータリークラブ 荒田一正